

高田城子楠龜子名其小野寺監物大次郎夏里之平
兵衛子治主膳里見亦次郎泉權之中川城之吉川
安藝守小野寺美作守葛岡清五郎石兵庫沼楠
小南條能登守兼川の城小早川大隅守山内越前守
松山の遠及上野介本回兵部前田但馬守山口修理
大所日向守小寺子延文三年二月十日高科が請ふ依て
由利七黨仁加保越前村岡宮内少輔浩次助三郎根野
井上雲守子名孫三郎子百余キ葦井森式部少輔南
條能登守子彦次郎子時赤尾津子死す高神
澤正卿人森伯耆守酒田修理亮大山對馬具後小

野寺遠江守玄通八阿隅川に帰陳赤尾津が差物
小杉嶺に城を築家督上総女伊盛公康安元年六月
廿日卒ス

伊盛公逝去上総介康安元年六月廿日卒ス二十七歳
行盛公伊盛公子舎方
氏盛公二男也

貞治元年山形斯波石京大夫家直より秋田戸込に隱雲
の三家に和を入る

豊盛公 恭盛公

康暦二年正月小山下野守義政一家の宇都宮治部
少弐基綱謀叛其勢を百式子余キ此時に鎌倉に安願が